

高齢者を支える「地域の力」が問われていますね

利用者様が一人では不安なので、ずっと一緒に付き添っているのですが、その時間は制度では認められないのです。かといってこの分を自費分として利用者様に請求しにくい。ただでさえ少ない年金から利用料を支払って、「お金がないのでヘルパー利用を週一回で我慢するわ」などの声を聞いていますので、

かと会う」「誰かが語りかける」プランを作っていました。しかし私たちがケアをしました。しかし私たちが事業所だけでは対応に限界があります。地域の方々が高齢者を見守る状況を作り出して、地域の力と私たちのような介護事業所とで連携を取らないと対応できません。



丹羽野 和夫さん

「結婚したらこの賃金で家族を養えない」とあとをたたない転職者

益田 この業界は「男性の寿退社」(笑)があるのです。男性介護職員が「結婚したらこの賃金では家族を養えない。夢を持って仕事をしたいが、食べられないので転職する」わけです。
三木 国の制度「改正」で、院内での待ち時間等が認められなくなり、具体的には利用者様の通院でヘルパーが同行した時、待ち時間がありますね。

「安心して住み続けられる街づくり」には自治体と地域、介護事業所との連携こそ

丹羽野 そのような「貧困な高齢者福祉政策」の中で、居宅訪問や相談活動をされているわけですが、そんな「お年寄りを巡る状況」はどうでしょうか？
三木 藤白台の事件があって、近所の独居老人の方が一ヶ月くらい恐怖で眠れなくなっておられました。ですので「毎日誰



自宅に84歳男性遺体
府営住宅に男性遺体

吹田市でも高齢者サービスが「本当に必要な方」に届いていない可能性も

方が出ていったが、パートナーは関知していない」など、探し回ることもしばしばです。こんなときに「地域の目」があれば、非常に助かります。早期発見すれば、後が楽です。向こう三軒両隣、団地の同じ階段の方々や、近所のお店などに前もって声をかけておいて何かあったら連絡してもらおうような態勢も必要です。
三木 ただ最近では個人情報管理、プライバシーの保護などが叫ばれますので、どこまで踏み込むか、難しい選択を迫られています。

丹羽野 吹田市ではゴミ収集のときに、高齢者の安否確認をかねて週に一回、「自宅を訪問して回収する」という「ふれあい回収」を始めました。しかしこの「ふれあい回収」は、事前に申請が必要で、認知症や寝たきりの方など「本当に必要な方」のところに届かない可能性もあります。
益田 独居老人でもデイサービスなどに来る人はまだマシです。問題は「お上の世話になっただけいけない」とサービスを拒絶する人、制度そのものを知らない人、お金がなくて断る人などにどう対処していくか、です。

丹羽野 問題が山積していることがよくわかりました。最後に吹田市や大阪府、国に対する要望などを。

市民ボランティアに補助金を出して市民は活動を支えてほしい

三木 吹田市報の11月号に「有償ボランティアを考える」というタイトルで新しい活動の案内

を出したら、問い合わせが結構ありました。「地域で困っている人のために何かやりたい」と考えてる市民が結構多いのだと思います。かつての私たちのようなボランティアをする人が増えてこそ、地域と福祉事業所のネットワークが充実します。吹田市に要望したいのは、そのような市民ボランティアに補助金を出して、市民活動を支援していく仕組みを作ってほしいということです。

現場の努力も、もう限界 財源がないと切り捨てず 高齢者福祉の原点に戻って

益田 特養には現在、42万人を超える方が待機しておられます。国は「できるだけ在宅で介護を」という方針ですが、在宅では無理だとおっしゃる家族が増えていくのです。それと利用者が年々重症化しています。胃に穴を空けてそこから栄養補充を食事しないといけない方や、たんの吸引が必要な方など。つまり医療

丹羽野 確かに最近では「隣は何をする人ぞ」という風潮が強くて、昔のようにきめ細かなネットワークがあるわけではないですからね。「安心して住み続けられる街づくり」のために自治体と地域、介護事業所などが連携する必要がありますね。
高齡化率が上がって「老老介護」どころか「認知症の「認認介護」も
益田 吹田市もご多分に漏れず高齡化率が上がっています。世間では高齢者が高齢者を介護する「老老介護」の問題が報道されますが、さらに事態は進んでいて、認知症の方同士で介護し合っている、「認認介護」まであるのです。
「2人がどこかへ徘徊した」

「地域の力」は大きい。しかしそれを支える国・自治体の役割は重大だ

的 なケアが必要なのに、介護職も看護職も不足しています。政府はこの間、介護保険制度を見直すたびに、介護報酬を削減してきました。予算が削られる中で現場では最大限に工夫して乗り切っていました。それが、それも限界に近づいています。財源がないと切り捨てるのではなく、今一度高齢者福祉の原点に戻って、誰もが安心して老いていけるような社会づくりを求めたいです。
丹羽野 老老介護や老人虐待など、高齢者の危機的状況が報道されていますが、そんな中であって、粘り強く地域福祉を守ってこられた活動に敬意を表したいと思います。そんな高齢者福祉の第一線で働く方へ、国や自治体ももっと支援すべきだと感じています。大阪府も吹田市も大規模開発に多額の税金を使っています。そんなお金を、困っている人々のために回すことが必要ですね。今日は現場からの貴重な報告、ありがとうございました。



上:10周年を迎えた「いのこの里」

下:「りぼん」の高齢者デイサービス事業